



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	FESU（ロシア極東国立総合大学函館校）
Author(s)	上田, 理子
Citation	高等継続教育研究, 3, 68-76
Issue Date	2004-03-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/51890
Type	departmental bulletin paper
File Information	Ueda-3-10.pdf



第5節 FESU（ロシア極東国立総合大学函館校）

上田 理子

1. はじめに

海外で認定された正規の大学であっても日本にその分校を開校した場合、そのままでは日本の学校教育法上の大学とは認められない。にもかかわらず、1982年にアメリカ、テンプル大学ジャパンが日本に進出したことを皮切りに、1990年代にアメリカ大学の日本校が30校から40校進出した¹。当時の日本校の急増は「日米貿易摩擦を解決するための政治的な要因」が背景にあった。この政治的な背景を受け、「日米貿易拡大促進委員会」の斡旋・支援により設立された大学には、南イリノイ大学新潟校（新潟県中条町）、ミネソタ州立大学機構秋田校（秋田県雄和町）、テキサスA&Mユニバーシティ郡山校（福島県郡山市）などがあった²。しかし、2003年現在、ほとんどが撤退しており、現在も日本校にて学士課程等を提供しているのはテンプル大学ジャパン、レイクランド大学ジャパンキャンパス、メリーハーデンベイラー大学日本校である³。

アメリカ大学日本校が定着しなかった理由として鳥井は日本の学校教育法上の位置づけや高額な学費等に起因する学生確保の問題、集まった学生の学力問題そして、大学文化の違いが運営上の障害になったと結論づけている⁴。同様の課題はアメリカのみならず、全ての海外大学日本校においても発生していると予測される。

本論では、アメリカではなくロシアに本校を持ち、函館に開校しているロシア極東国立総合大学函館校（Far Eastern State University: 以下 FESU という）に焦点をあて検証する。

2. ロシア極東国立総合大学

FESUの本校であるロシア極東国立総合大学はロシア極東地域において、最古の伝統を誇る最大の総合大学であり、1899年にウラジオストクに東洋学研究所として創設された。その後一時中断期間があったものの、その規模を拡大し、現在では13研究所、33学部および107学科を有する総合大学となった⁵。学生数約22,000名、1,200名を越す教授陣が

¹ 「大学等の国際的な展開に関する質保証について：国際展開WGからの報告」（2003年11月10日開催資料5-1）、国際的な大学の質保証に関する調査研究協力者会議、文部科学省、http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/024/siryou/04010802/006...より。

² 鳥井康照「米国大学日本校の進出と撤退」『特集メディア・リテラシーの総合研究－生涯学習の視点から－』国立教育政策研究所紀要第132集、199-206頁、2003年。

³ 「大学等の国際的な展開に関する質保証について：国際展開WGからの報告」（2003年11月10日開催資料5-1）、国際的な大学の質保証に関する調査研究協力者会議、文部科学省、http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/024/siryou/04010802/006...より。

⁴ 鳥井康照「米国大学日本校の進出と撤退」『特集メディア・リテラシーの総合研究－生涯学習の視点から－』国立教育政策研究所紀要第132集、199-206頁、2003年。具体的には、①学生数の減少、②学費の高さ、③日本校の評判の低さ、④学生の英語力の問題、⑤設置形態の問題、⑥大学に対する考えかたの違い、⑦アメリカ側からの契約解消通告、の7点を挙げている。

⁵ ロシア極東国立総合大学英文ホームページの総合情報（General Information）より。

おり、ロシアの教育省によると、教育・研究レベルではロシア全国の約 700 大学のうち、第 2 位にランクされている⁶。また、国際部があり、留学生の交流プログラムを実施している。1989 年に国際部に附属して設立されたロシア語学校では日本を始め、アメリカ、韓国、中国、シンガポールなど、世界中からの留学生のためにロシア語教育を行っている。また、世界各国とも積極的に国際交流を展開しており、各国の 26 大学と提携している⁷。

3. FESU の概要

今回の調査では、ロシア極東国立総合大学の分校である FESU について、2003 年 8 月 8 日、事務局に勤める大渡涼子氏に面接調査を実施した。

1994 年に、FESU は明日の日ロ交流を担う人材を世に送り出すことにより、さらに実りある両国の交流に貢献することを願って函館に開校した。これは、函館市に大学誘致運動が展開されていたにもかかわらず、国立大学誘致も新大学設置も困難であるという状況が続いていた時にロシア極東国立総合大学が日本で分校設置の場所を探していることを知った前函館市長が誘致した結果である。誘致を受けたロシア極東国立総合大学は、函館にはロシア人墓地や教会があり、かつて領事館が置かれていた等ロシアとの関わりが深い土地であったことから、函館に開校することを決定した。

1996 年、FESU の 4 年制のロシア地域学科と 2 年制のロシア語科の 2 学科は「大学」としてではなく「専修学校ファーイースタンスティトユニバーシティ函館校」として認可された。

3-1 ロシア地域学科（4 年制）

ロシア地域学科ではロシア語の日常会話を中心に、基礎的な文法ならびに作文等をトレーニングするほか、講読・演習を通じてロシア語力を養成する。3、4 年次には言語習得に加え、ロシアの歴史・文化・政治・経済などを学習し、ロシアのスペシャリストの育成を目指す。また、極東国立総合大学の 4 年制課程と同等の知識を獲得できるよう通訳論、英語、コンピュータ入門、体育、法学、経営学等の科目も履修する（別表 1 参照）。3 年次には、ウラジオストクにある本学で 3 ヶ月間の実習があり、卒業時には極東国立総合大学から学士称号の卒業証書が授与される。ロシア地域学科ではロシア本学と同じ卒業証書が授与され、ロシア国内で大学卒業資格として通用する。

また、日本でも専修学校の認可を受けていることから「専門士」の称号も授与され、日本の 4 年制大学への編入学試験の受験資格も得られる。

ロシア地域学科では 3 年次に学年論文を日本語で作成する。テーマは教員が提案し、学生が興味のあるテーマを選択する。テーマは例えばロシアの政治体制、文学、語学等である。4 年次には学年論文を基に卒業論文を作成する。卒業論文はロシア語で作成するが、学生 1 人では困難なため、教員の支援を受けながら作成する。最終的には卒論発表会を開

<http://www.dvgu.ru/dip/Catalog/GnrlInfo.htm>

⁶ ロシア極東国立総合大学函館校 学校案内。

⁷ ロシア極東国立総合大学英文ホームページの総合情報（General Information）より。

<http://www.dvgu.ru/dip/Catalog/GnrlInfo.htm>

催し、その評価を受けて卒業できるようになっており、日本での教育行政上の区分では専修学校ではあるが、内容的には日本の4年制大学とも遜色はない。

日本では4年制のロシア地域学科も専修学校扱いになるが、函館市役所の場合は、大学卒の資格で採用する。その他の企業への就職の場合にも、応募時に事情を説明し、扱いを大学卒にするか、専修学校卒にするかの判断を採用側に委ねている。

ロシア地域学科の学生には、時間的、経済的に余裕がある学生あるいは、定年退職者が多い。

3-2 ロシア語科（2年制）

ロシア語科では、日常的に使えるロシア語を集中的に学び、2年次にはウラジオストクの本学で1ヶ月間の実習が行われる。2年間の課程修了後、FESUのロシア地域学科3年次への編入資格が認められる。卒業時には極東国立総合大学の「卒業証書」ではなく、「修了証書」が授与される。ロシア語科はあくまでも2年間だけ勉強し、課程を修了したことの証明であり、ロシア国内で通用する資格ではない。ロシアにある4年制大学の3年次に編入することもできない。

入学してくる学生は、ロシア語科の場合は大学卒業者あるいは社会人経験を経ているが、経済的あるいは時間的余裕がない人が短期で勉強したいと希望してくることが多い。FESUで基礎を学び、それ以上のレベルは実際ロシアに行って勉強する目的を持った学生が2年制のロシア語科に入学する傾向にある。2003年度ロシア語科には9名の入学者があった。内訳は新卒2名、社会人経験者7名である。

カリキュラムは別紙2の通りである。

3-3 ロシア語教育

ロシア語の授業は両学科とも少人数の方が望ましいため、10人以下にクラス分けしている。

FESUには恵まれたロシア語の学習環境が目的で入学している学生も多いが、その充実度は視察にした文部科学省の職員が日本全国の中で最も充実してロシア語が学べる環境であると感想を述べたほどである。

ロシア語の授業はロシア人教授陣がペアでチームを組み、日本語で説明した後ロシア語のみで演習するというツー・ステップの繰り返しの授業を行い、特に基礎文法と理解力を重点的に教育する。少人数に加え、教授陣のオリジナルテキスト、視聴覚機材（LL教室）等をふんだんに用い、ロシア語のシャワーを浴びつつ、ロシア語の音とリズムに触れ、質問にも反射的に対応する能力を磨く。

本校でのロシア語実習は本校ウラジオストクで寮生活を通じての留学実習がカリキュラムの中に位置付けられている。ロシア語実習の費用は追加で徴収されるが、ウラジオストクまでの旅費と現地で支払う寮費、見学費・食事代などの生活費がかかり、ロシア語科の1ヶ月研修で約20万円、ロシア地域学科の3ヶ月研修で約35万円必要である。

4. 経営について

FESU の 2 学科の定員は各 40 名であり、全学年合わせて 240 名定員となっている。しかしながら、2003 年度の入学者総数は 15 名、在学生総数は 36 名であり、学生募集には苦戦している。学校経営は授業料収入だけでは難しい。授業料は 2003 年度の実績では初年度納付金が入学金 15 万円、授業料 70 万円、教育充実費 2 万円の合計 89 万円である。2 年次以降は入学金を除く 74 万円だが留学実習にかかる費用は前述の通り、別途徴収する。

授業料収入以外の収入は北海道教育委員会からの委託事業、青森県庁からの委託事業、民間銀行のロシア語研修請負等事業収入ならびに市民講座の受講料である。

函館市からは 1998 年から年間 2,000 万円、1999 年度から 2003 年度は毎年度 3,000 万円が補助されている。また、人事的にも函館市が経費負担し、FESU の事務局次長に市の係長職が 1 名派遣している。建物も函館市が所有している建物だが、無償貸与を受けている。

FESU に対してロシアの本校からの経済支援は全くない。教員は派遣されるが、教員給与も授業料収入の中から FESU が払っている。

5. 学生について

入学者の出身地は日本海側が多い。日本海側はロシアとの交流が活発なため興味をもった学生が多い。学生募集担当者も日本海側に重点をおき敦賀、新潟方面を中心に周る。函館市民にも PR するようにはしているが、FESU はロシア人が勉強している学校だと勘違いをしている人が多い。

入学試験は、指定校推薦入試、推薦入試（自己推薦または学校推薦）、一般入試の 3 タイプある。

指定校推薦は、語学および国際交流に熱心な高校から各 1 名のみ、学校長の推薦があれば無試験および入学金免除でロシア地域学科に受け入れる（2002 年度実績 1 名、2003 年度 2 名）。

推薦入試も一般入試も書類選考および面接のみとなっているが、基本的には志願者全員合格する。ただし、ロシアに本校を持ち、ロシアの学校文化を継承し、展開しているため、先生方は学習態度に対して厳格であり、入学後の学生生活が厳しい。このため、ロシア人教員は予想以上に日本人は勉強しないという印象を持っている。

授業の時間割は週 5 日間毎日 1 日 3 コマ、多いときは 4 コマある。宿題も多く、自学自習しなければついていけない。通常 8 割以上出席しないと試験の受験資格がない。このため、留年や退学者も多い。目的のない学生はカリキュラムが厳しいため中退することが多い。自分で授業料を負担している社会人学生は概して熱心である。授業も休まず、必ずロシア語を身につけ卒業していく。しかし、親が授業料を負担している学生は意識が低い傾向が強い。

学生は自治会を組成しているが、学生総数が少ないため全員が自治会に入会している。自治会の目的は明確ではなく、歓送迎会の幹事、ロシア祭の際の実行委員会への参加等が主な活動である。

6. 教員の人事等

専任教員は校長を含め8名おり、1名のみ日本人である。日本人教員は、英語とロシア語の担当をしている。ロシア人教員はウラジオストク本校からの派遣であり、1年更新で本人とウラジオストク本校の学長との契約に基づき来日する。人事権はロシアの本学の学長にある。教員に教授という肩書きがあるが、これは本校の資格である。

来日の際、家族を伴わず、単身で派遣されてくる教員が多い。帰国教員がでると、次の教員が本校から派遣されて繰る仕組みになっている。教員は学長との1年契約のため、2年以降も日本にいかどうか予定がわからない。しかし、実際は1年で帰るロシア人教員はいない。最長の教員で今年7年目、一番新しい教員でも3年目になっている。

日本人教員については学校法人函館国際学園としての雇用となるため、極東国立総合大学本校の権限は及ばない。

学校法人理事長は本校学長が兼任している。学長は、年に2回程度しか来日しないため、FESUの事務職局には理事長の補佐的業務を遂行するために、理事長代行の専務理事1名が配属されている。この他事務局長、市役所派遣の次長および事務職員2名総勢4名の事務体制である。

7. FESU と地域社会

FESUはロシアに基盤を持つ高等教育機関であり、日本では専修学校として認可されている。しかしながら、FESUの特徴はその教育自体もさることながら、その地域との連携体制にある。

7-1 ロシア人学生の受け入れ

函館地方法人会の青年部、青年会議所等、企業の若い人が活動している団体等、函館市の青年5団体で構成している「ロシア極東国立総合大学留学生支援実行委員会」という組織がある。この委員会は日本に来て日本語、経済、文化等を勉強したいけれどもお金がないというロシア人学生のために募金活動や寄付を行い、ロシア人学生を毎年5、6名日本に招聘し、FESUで日本語を勉強させている。この事業の主催は実行委員会のためFESUでは委託を受けて授業提供する形態をとっている。留学期間は1カ月で国内でかかる旅費交通費、授業料などの経費を函館市ならびに青年5団体等の寄付・募金から支給する。留学生は1週間の市内ホームステイの後、3週間市内のホテルに宿泊し、通学する。

来日した学生はFESUの両学科に混じり授業を受けるのではなく、日本語、茶道、華道、書道等の日本文化について別途授業受講する。

留学生を受け入れることによりFESUの学生はロシア人学生と話す機会が増える他、秋の「函館ロシア祭」で協働する。「函館ロシア祭」とは学祭というよりは函館市民の方にロシアを知ってもらうことを目的としたイベント的性格を持つ。この祭りは来日しているロシア人で日本語を勉強している学生とFESUの学生が交流を図る場となっている。また、FESUの学生がロシアで語学実習をする際に、函館で知り合いになったロシア人学生に面倒を見てもらうなど継続した交流が育まれている。

7-2 ロシア語講座

(1) ロシア語市民講座

FESU ではロシア語市民講座を 1994 年の開学当初から開催している。

開催は 1 年単位で毎年開催しており、年間 20 名から 40 名程度の学生が学んでいる。リピーターもいる。各クラス 10 名以内で、入門・初級・中級・上級の 4 クラスが開催されている。入門はアルファベットの読み方から始め、1 年で終わる。2 年目は初級に進級するが初級クラスは難しいため、くり返し受講する人が増える。簡単な会話ができるレベルの初級終了後、ロシア語のテキストを読みこなすレベルを目指す中級にすぐに進める人はほとんどいない。上級では自由に翻訳・通訳ができ、ロシアのテレビ・ラジオが十分に理解できるレベルを目指す。この講座は函館市の生涯学習事業、HAKODATE まなびっと広場の選択科目になっており、1 回 1 単位が認定される。

(2) 税関職員研修

FESU では税関職員のロシア語研修を請け負っている。期間は 2 ヶ月弱で、内容は一般的なロシア語の他税関ロシア語とロシア経済・文化などを学び、研修期間中に行われる後述の弁論大会に出場する。2003 年には函館、横浜、門司の税関から計 8 名の参加があった。

(3) ロシア語弁論大会

年に 1 度、学生および一般を対象とした FESU 主催の「ロシア語弁論大会」を開催し、ロシア語学習の活性化および動機づけを図っている。2003 年開催の第 8 回大会には学内外から 19 名の応募があり、ロシア語学習歴 250 時間以上の A クラスでは 5 分間のスピーチと質疑応答、250 時間未満の B クラスでは 3 分間のスピーチを披露し、学習成果を競った。

7-3 函館ベリョースカクラブ

FESU では、ロシア人教員が中心となって企画する「函館ベリョースカクラブ」を 1999 年から開催している⁸。

クラブはロシアに親しんでもらい、身近に感じてもらうことを目的として開催されている。開催は毎月 1 回月曜日の 3 時ごろから 1 時間程度であり、住宅事情、文学、料理、ロシア民謡、ロシア映画などロシアに関する身近なテーマが選ばれる。講座は日本語で年 7、8 回開催し、年会費を 3,000 円徴収している。この講座は函館市の生涯学習事業、HAKODATE まなびっと広場の選択科目になっており、1 回 1 単位が認定される。

7-4 函館市等との連携

函館市は、ウラジオストクとサハリンの西のユジノサハリンスクと姉妹都市提携しているため、FESU は通訳派遣ならびに翻訳協力をしている。例えば、中学生の交流等でユジノサハリンスクから 20 名ほどの中学生を函館に 1 週間くらい招聘し、大沼観光ならびに

⁸ ベリョースカとはロシア語で白樺を意味する。

日本の暮らしを体験してもらう事業を行っている。この受け入れ時には FESU の学生をバイトの通訳として派遣する他、FESU の校長が日本についてレクチャーに行くなど市役所から依頼をうけ、協力している。この他、函館日露親善協会の団体の事務も 2001 年から FESU 事務局で執り行い、行事の共催等、事業の支援など、民間レベルでの交流を支援している。

函館市内の大学との交流はほとんどないが、2003 年より函館市、函館商工会議所、産学連携「クリエイティブネットワーク」および各大学等主催の「函館アカデミックフォーラム」に参加することになった。このフォーラムは各大学等の日頃の研究成果や学内活動等の発表や展示を通じて大学等と市民あるいは企業人との連携を促進することに目的に開催されている。

7-5 在札幌ロシア総領事館の函館事務所

2003 年秋から、FESU が開校しているビルの中に在札幌ロシア総領事館の函館事務所が開設され、領事が一名常駐し、ビザの発給等簡単な領事館業務支援を行っている。FESU は領事館と連携をとり、日本におけるロシア文化センターとして協力する。

8. まとめ

2003 年 7 月発行の FESU の学報「ミリオン・ズビョースト／百万の星」に FESU のイリン・セルゲイ校長が 6 年前に赴任したときの思いを回想している。「函館校は日本唯一のロシアの教育機関であり、ロシア文化の知識を日本に普及させるユニークな機会を与えている。単に学校であるだけでなく、ロシア教育・文化のセンターとならなければならない。そこで函館ロシア文化センターのアイデアが生まれた⁹。」この結果、ベリョースカクラブ、ロシア語市民講座、税関職員のロシア語研修、本校日本語学科学生の研修受入、日露青年交流センターの委託事業が展開され、今日に至っている。

日本において、ロシアに関心を持つ層は決して多くはない。しかし、FESU の 9 年間の文化活動がロシア本国にも評価され、2003 年度に在札幌ロシア総領事館函館事務所が併設されることになったことは想像に難くない。

海外大学が日本校を開設する際には、教育法上の制約もあり、母国における教育制度をそのまま踏襲することはむずかしい。その際に、あえて母国の制度に固執し、日本にただ「ある」だけにするのか、日本の教育文化に順応するかは難しい判断である。

1990 年代に急増したアメリカ大学の日本校が撤退した大きな原因のひとつに、学校法人化せず、株式会社による設立にしたため、状況が悪化した際に撤退の判断を下しやすかったといわれている¹⁰。

FESU は学校法人函館国際学園として立ち上げ、日本に根ざした教育を展開しようと努力している。このため、安易な撤退は今後ないと予測されるが、ロシア本校からの経済

⁹ <http://www.fesu.ac.jp/report/36-p1.html>

¹⁰ 開校期間の最短は 2 ヶ月であった。鳥井康熙「米国大学日本校の進出と撤退」『特集メディア・リテラシーの総合研究－生涯学習の視点から－』国立教育政策研究所紀要第 132 集、199-206 頁、2003 年。

的支援はなく、学生募集の困難による学生減少が学校経営を維持するためには大きな課題となっている。現状でも函館市からの補助金なければ、FESUの継続は難しいだろう。函館市の財政状況によって補助金支出がどう変化するかは危惧するところではある。しかし、函館市の個性化、国際化の促進・発展のためには、教育のみならず文化の情報発信源として事業展開しているFESUを活用することによって函館市に還元されるものは大きいのではないかと思われる。

別表1 ロシア地域学科カリキュラム時間数

No	科目	第1学年			第2学年			第3学年			第4学年			4年間 合計
		前期	後期	合計	前期	後期	合計	前期	後期	合計	前期	後期	合計	
1	実用ロシア語	210	190	400	120	152	272	90	70	160	120	190	310	1,142
2	ロシア語会話								240	240				240
3	ロシア語演習	60	38	98	30	38	68	60	14	74	30	38	68	308
4	ロシア語講読		38	38	30	38	68	60	14	74	30	38	68	248
5	通訳論				60	76	136	90	28	118	90	76	166	420
6	英語	60	76	136	60	76	136	60	28	88	90	76	166	526
7	ロシア地理	30		30										30
8	ロシア民俗学				30	38	68							68
9	ロシア国家政治体制							30	14	44				44
10	ロシア経済		38	38							30		30	68
11	ロシア史	30	38	68	30	38	68							136
12	ロシア文学史				30	38	68	30	14	44	30		30	142
13	ロシア文化史				30	38	68	30		30				98
14	哲学										30		30	30
15	コンピュータ入門					38	38							38
16	体育	30	38	68	30	38	68							136
17	ゼミナール	30	38	68	60	38	98	30		30		38	38	234
18	経営学				30		30							30
19	法学入門							30		30				30
20	論文作成							30	38	68	30	38	68	136
合計		450	494	944	540	646	1,186	540	460	1,000	480	494	974	4,104

※時間数に留学実習時間も含む

別表2 ロシア語科カリキュラム時間数

No	科目	第1学年			第2学年			2年間
		前期	後期	合計	前期	後期	合計	合計
1	実用ロシア語	210	190	400	110	152	262	662
2	ロシア語会話				80		80	80
3	ロシア語演習	60	38	98	22	38	60	158
4	ロシア語講読		38	38	22	38	60	98
5	通訳論				44	76	120	120
6	英語	60	76	136	44	76	120	256
7	ロシア地理	30		30				30
8	ロシア民俗学				22	38	60	60
9	ロシア経済		38	38				38
10	ロシア史	30	38	68	22	38	60	128
11	ロシア文学史入門				22	38	60	60
12	ロシア文化史				22	38	60	60
13	コンピュータ入門					38	38	38
14	ゼミナール	30	38	68	52	38	90	158
合計		420	456	876	462	608	1,070	1,946

※時間数に留学実習時間も含む